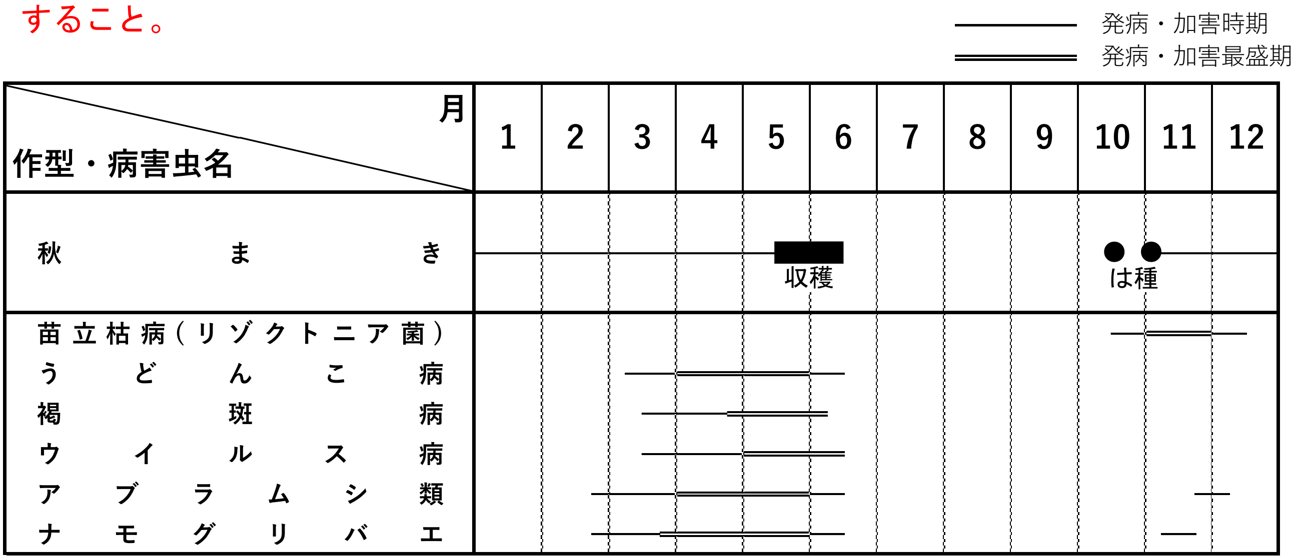
実えんどう

農薬取締法上、「実えんどう」は「さやえんどう」や「えんどうまめ」とは別の作物である。（さやえんどうの項目参照）

「実えんどう」には、「実えんどう」「豆類（未成熟）」「野菜類」に適用のある農薬を使用すること。



苗立枯病

留意事項

1 バスアミド微粒剤、ガスタード微粒剤は、リゾクトニア菌に有効である。

防除方法

1 連作を避ける。

2 本ぽを土壌消毒する。（ⅩⅢ土壌消毒2(4) 参照）

・**バスアミド微粒剤**、**ガスタード微粒剤** 劇 [一]

【リゾクトニア菌　20～30kg／10a　所定量を均一に散布して土壌と混和する　は種または定植21日前／1回】

うどんこ病

留意事項

1 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

2 QoI剤（[11]）、SDHI剤（[7]）は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

1 密植を避け、通風を良くする。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

2 窒素質肥料の過用を避け、リン酸・カリ肥料を十分施用する。

3 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を予防的に散布する。

・サンヨール ─【500倍　前日／4回】

4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・トリフミン水和剤 ３【3000～5000倍　前日／5回】

・シグナムWDG １１ ７【1500～2000倍　前日／2回】

・ハチハチフロアブル 劇 ３９【1000倍　前日／2回】

褐斑病

防除方法

1 被害株は早めに取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。

2 密植を避け、通風を良くする。

3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・トップジンM水和剤 １【2000倍　前日／3回】

ウイルス病

留意事項

1 種子、アブラムシ類により伝染する。

2 生育初期にアブラムシ類の防除に努める。

防除方法

1 健全種子を用いる。

2 子葉展開時から有翅アブラムシ類の防除に努める。

【アブラムシ類の項参照】

3 除草を徹底する。

アブラムシ類

留意事項

1 スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤は同一成分ジノテフランを含み、総使用回数は3回以内（但し、株元散布は1回以内、散布は2回以内）。

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤 ４Ａ【2000倍　前日／2回】

・ウララDF ２９【2000～4000倍　前日／2回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

・アディオン乳剤 ３Ａ
　【豆類（未成熟、ただし除えだまめ、さやいんげん、さやえんどう、未成熟そらまめ）
　　3000倍　14日／3回】

ナモグリバエ

留意事項

1 散布開始適期は3月下旬である。

2 パダンSG水溶剤は、眼に刺激性があるので眼に入らないように注意する。

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を10日間隔で2～3回散布する。

・アファーム乳剤 ６
　【豆類（未成熟、ただし除さやいんげん）　ハモグリバエ類　2000倍　3日／2回】

・スピノエース顆粒水和剤 ５【ハモグリバエ類　5000倍　前日／2回】

・パダンSG水溶剤 劇 １４【1500～3000倍　前日／3回】

・アディオン乳剤 ３Ａ
　【豆類（未成熟、ただし除えだまめ、さやいんげん、さやえんどう、未成熟そらまめ）
　　ハモグリバエ類　3000倍　14日／3回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。